

『落ち葉会議がはじまるよ!』

「ひとりぼっちでさみしくくないですか」

一枚の真っ赤なかえでの落葉が、風に舞いながら帽子のツバにとまると、おじさんに話かけました。

もくもくもくの入道雲が、うすくくずれ出しはじめ、ふと気がつくとき、もういわし雲でした。

夏が過ぎると、秋がどんどん駆け出しはじめます。大きな団地にある小さな公園にも、落ち葉の舞いがにぎやかになってきました。

夕方になると公園のベンチで、ひと休みしているか  
れるひとりのおじさんに、気づきはじめてから一週間がたとうとしていました。

おじさんは、まわりをきよろきよろ見まわしながら、しきりに首をかしげています。

「ここですよ!あなたの帽子のつばに止まっている落ち葉ですよ」

おじさんは、帽子を脱いでひざにおくと、「だれかと思ったら君か!」と、目を細めました。

「ぼくたちの仲間に入りませんか」

「そうだな：落ち葉くんたちの仲間入りか」

「おじさんさえよければ、ぼくたちは大歓迎なんだ。

おじさんを誘ってみようよと—今朝の落ち葉会議で話し合ったんだよ」



おじさんが、はじめて出席した落ち葉会議では、

どんぐりくんと松ぼっくりくんを、仲間に入れるか、

どうかについて話し合われました。

翌日には、“落ち葉”と“枯れ葉”の違いが話題に

のぼり、おじさんが、植物図鑑で調べてくる役になりました。

「毎日が楽しそうですね」と家族からもいわれるよ」

おじさんは、もうニコニコ顔です

師走に入ったある日の会議では、イヌの飼い主の

マナーに、非難の声がゴウゴウとあがりました。

おじさんの発案で、ポスターを作ることになりました。

『みんなの公園です！』

愛犬のフンは飼い主の責任で

処理しましょう。

ご協力をよろしくお願いします。

〈落ち葉会議〉

書きあがったポスターに、落ち葉くんたちは、うなづき合い、椎の木の幹に貼られた『迷子のねこ・モモを探しています』のポスターの下に掲げることになりました。おじさんの結び付け作業を眺めながら、落ち葉くんたちは、忘れかけていたモモチャんのことを思い出しました。

「まだ帰ってこないのかな？」

「まだ貼られたままだからね」

「家族のみんな心配だろうな……」

急に沈みがちになってしまった皆を励まそうと、仲間に入れてもらったばかりのどんぐりくんが―「歌をうたえば元気がでるさ！」と、『どんぐりころころどんぶりこ……』と、大声で歌いはじめました。

♪どんぐりころころ どんぶりこ  
おいけにはまって さあたいへん  
どじょうがでてきて こんには  
ぼっちゃんいっしょに あそびましょう

おじさんが、何時もいつも本を一冊、上着のポケットに入れておられることに気付いていた落ち葉くんたちは——

「ぼくたちにも皆で歌って元気のでる楽しい歌を作ってください」と、せがみました。

「君たち、どんな歌を知ってるのかな？」

『赤とんぼ』『ゆりかごのうた』『夕焼け小焼け』

『春よ来い』『くつが鳴る』『背くらべ』……

落ち葉くんたちは、知っているかぎりの歌の題名をあげるのです。どれもこれも、おじさんが、子ども頃によく歌っていたなつかしい歌ばかりなのです。

「みんなが知っているメロディーに詩を書いてあげるよ。ちょっとばかり時間がほしいな」

「ばんざい!」「やった!」「ありがとう!」

落ち葉くんたちは、元気をとりもどし、肩をたたきあつて、もうおおさわぎです。



約束の歌詞が出来あがる頃には、もう冬將軍の足音が大きく聞こえはじめていました。

落ち葉くんたちとおじさんとの別れの日も、近づきつつありました。

そうなんです—もう明日にも、落ち葉くんたちは、清掃のおじさん・おばさんに、かき集められ、トラツクに積まれていくのです。春になって生まれてくる、落ち葉くんたちの弟たち、妹たちのための腐葉土になるそうです…。

今日がいよいよ最後の「落ち葉会議」の日です。待ちに待っていた、おじさんとの約束の歌が出来あがりました。落ち葉くんたちは、どの顔を見ても、笑顔…笑顔…笑顔…の花ざかりです。

『落ち葉の仲間たち』という出来たばかりの歌を、  
みんなで元気よく合唱しました——

メロデーは、『春よこい』です——

♪春よこい 早くこい

歩きはじめた みいちゃんが

赤いはなおの じよじよはいて

おんもへ出たいと 待っている)

——なのです。

皆は、すぐにおぼえて歌うことが出来ました。

♪舞ってこい みんなこい

落ち葉会議が はじまるよ

今日もみんなで 笑みこぼし

楽しい一日 がんばるぞ



「仲間に入れてくれてありがとう」

おじさんは、みんなの顔を見渡しながら、深々と

頭を下げました。

真っ赤だった色素が、すっかり色々あせ、茶色っぽ

くなってしまったていますが、落ち葉会議の仲間にさ

そってくれたくかえでくんが、話しかけてきました。

「お願いがあるんです。ぼくを—おじさんの“しおり”にしてくださいませんか」

「明日からは、ふたりだけの“落ち葉会議”になるんだね…かえでくん、よろしく！」

「おじさんといつもいっしょだから、皆と別れてもすこしもさみしくなんかないですよ」

「春が来て、夏が過ぎ、秋になれば、また新しい仲間ま あに会えるさ」

「また、みんなで『落ち葉の仲間たち』を、大きな声こえ うたで歌うんだ。おじさん！元気が出る歌を作ってくれてありがとう！」

「そうだね…落ち葉会議のはじまる前に、みんなで『落ち葉の仲間たち』を、歌うことにしようよ。大きな声こえ うたで歌えば、きっとその日が元気で楽しくなるさ」

おじさんは、色あせた“かえでくん”に、やさしく声をかけ、買ったばかりの新しい年の手帳に、そっとはさみこみました。  
(おしまい)